

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 22 日 (2006.6.22)

【公表番号】特表 2002-540814 (P2002-540814A)

【公表日】平成 14 年 12 月 3 日 (2002.12.3)

【出願番号】特願 2000-611075 (P2000-611075)

【国際特許分類】

C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
A 6 1 K	31/713	(2006.01)
A 6 1 K	35/14	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 1 2 Q	1/04	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/543	(2006.01)
G 0 1 N	33/574	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)

【F I】

C 1 2 Q	1/68	Z N A A
A 6 1 K	31/713	
A 6 1 K	35/14	Z
A 6 1 K	35/76	
A 6 1 K	39/395	E
A 6 1 K	39/395	T
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
C 1 2 Q	1/04	
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/543	5 9 7
G 0 1 N	33/574	A
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 29 日 (2006.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被験体において二次的前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するための医薬の製造における、f l t - 4 の発現または活性を阻害する治療有効量の分子の使用であって、ここで、該分子は、タンパク質であって、該タンパク質は、f l t - 4 のフ

ラグメントを含み、該フラグメントは、少なくとも配列番号 2 において示されるアミノ酸配列からなり、該タンパク質は、そのリガンド V E G F - C に結合する f 1 t - 4 の競合的インヒビターとして作用する、使用。

【請求項 2】 前記タンパク質が可溶性である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】 被験体において二次的前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するための医薬の製造における、f 1 t - 4 の発現または活性を阻害する治療有効量の分子の使用であって、ここで、該分子は、核酸分子であって、該核酸分子は、f 1 t - 4 のフラグメントをコードするヌクレオチド配列を含み、該フラグメントは、そのリガンド V E G F - C への f 1 t - 4 結合の競合的インヒビターとして作用する、使用。

【請求項 4】 被験体において二次的前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するための医薬の製造における、f 1 t - 4 の発現または活性を阻害する治療有効量の分子の使用であって、ここで、該分子は、アンチセンスオリゴヌクレオチドであって、該オリゴヌクレオチドは、配列番号 1 に示されるヌクレオチド配列に相補的な少なくとも 6 つの連続するヌクレオチドからなるヌクレオチド配列を含む、使用。

【請求項 5】 前記アンチセンスオリゴヌクレオチドは、ヌクレオチド配列 5' - G G C G C C C C G C T G C A T - 3' (配列番号 3) を含む、請求項 4 に記載の使用。

【請求項 6】 被験体において二次的前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するための医薬の製造における、f 1 t - 4 の発現または活性を阻害する治療有効量の分子の使用であって、ここで、該分子は、f 1 t - 4 に結合する抗体またはその一部を含む、使用。

【請求項 7】 二次前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防する分子についてスクリーニングするための方法であって、該方法は以下の工程：

f 1 t - 4 を発現する前立腺細胞に、候補分子を接触させる工程、および

そのように接触された該細胞における f 1 t - 4 発現のレベルを、そのようには接触されていない f 1 t - 4 を発現する前立腺細胞と比較する工程であって、該非接触細胞と比較して、該接触された細胞においてより低いレベルの f 1 t - 4 発現は、該候補分子が二次前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するにおいて活性を有することを示す、工程、を包含する、方法。

【請求項 8】 二次前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防する分子についてスクリーニングするための方法であって、該方法は以下の工程：

候補分子の存在下で f 1 t - 4 と V E G F - C とから形成される複合体、または f 1 t - 4 と V E G F - D とから形成される複合体のレベルを、該複合体の形成が実施される条件下で測定する工程；および

該分子の非存在下で形成される該複合体のレベルを比較する工程であって、該分子の存在下における該複合体のより低いレベルは、該候補分子が二次前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するにおいて活性を有することを示す、工程、を包含する、方法。

【請求項 9】 二次前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防する分子についてスクリーニングするための方法であって、該方法は以下の工程：

候補分子の存在下で f 1 t - 4 と V E G F - D とから形成される複合体のレベルを、該複合体の形成が実施される条件下で測定する工程；および

該分子の非存在下で形成される該複合体のレベルを比較する工程であって、該分子の存在下における該複合体のより低いレベルは、該候補分子が二次前立腺腫瘍転移を処置、阻害または予防するにおいて活性を有することを示す、工程、を包含する、方法。

【請求項 10】 転移性前立腺癌を処置または阻害する方法の効力をモニターする方法であって、該方法は以下の工程：

被検体から得られた前立腺細胞における f 1 t - 4 の発現または活性のレベルを測定する工程であって、該サンプルは、該方法の適用の後に該被検体から得られ、そして

( a ) 該方法の適用前に該被検体から得られたサンプルにおける該レベル、または

(b) 転移性前立腺癌の前処置段階に関連する標準的なレベル、と比較し、ここで、該方法の適用前に取られた該サンプルにおける f l t - 4 の発現もしくは活性のレベルまたは該標準的なレベルと比較して、該方法の適用後にとられた該サンプルにおける f l t - 4 の発現または活性のレベルにおける減少は、該方法が有効であることを示す、工程、を包含する、方法。